

# CAR DETAILING NEWS

カーディテリングビジネス & テクニカル専門情報紙

カーディテリングニュース

2020 APR.  
No.142  
2020年(令和2年)4月25日  
since1996



## 洗車・PPF特集

発行所  
株式会社ジーシーレゾナンス  
〒104-0045東京都中央区築地3-3-2NEWS築地9階  
TEL(03)5565-1642(代表)

編集制作  
日刊自動車新聞社  
〒105-0012東京都港区芝大門1-10-11  
芝大門センタービル3階  
TEL(03)5777-2351(代表)

監修  
日本カーディテリング協会  
購読料 (一部売り)500円  
年間購読料 (6回分)3,000円(送料込み)

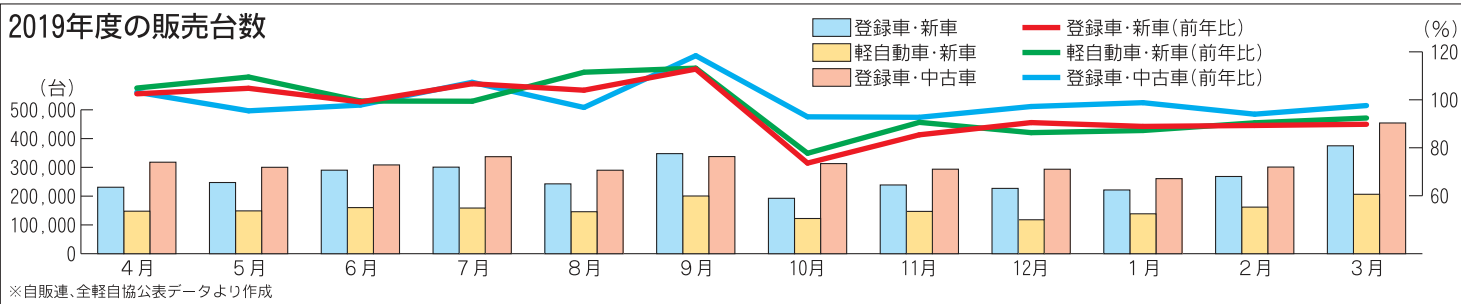
定期購読のお申込み・広告に関するお問合せは  
http://detailing-news.jimdo.com

BODY COATING | WINDOW REPAIR | CAR FILM | PAINT-LESS DENT REPAIR | CAR CLEANING

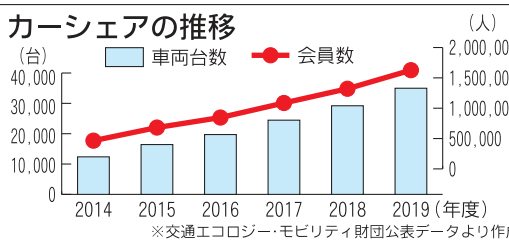
# 既販車の価値を維持する洗車・PPF

## 新車低迷にカーシェアの普及

2019年度の販売台数



カーシェアの推移



2019年10月の増税を引き金に新車の販売低迷が一層深刻化し、新型コロナウイルス感染拡大の今後への影響も危惧されている。他方では既販車を活用するカーシェアが活況を呈し、最近では自動車メーカーによる中古車のサブスクリプション(定額利用)サービスも話題となった。「所有から使用の時代」へ移るなか、既販車の価値を維持するという観点から各種ディテリングサービスには新たな商機が見え始めている。

新車販売の低迷は、カーディテリング業界にとっても喫緊の課題。主軸であるボディコーティングとカーフィルムは新車納車時の施工比率も高く、特に普及

日本自動車販売協会連合会(自販連)によると、19年度の自動車販売台数(乗用車・貨物・バス含む)は前年比4.6%減の318万2760台となり、3年連続の前年割れとなった。特に10月の消費増税の影響が著しく、4~9月累計では前年比5.2%増だったものの、10月単月では同26.4%減、以降も11月(14.6%減)、12月(9.5%減)と続き、今年に入ってから10%超の前年割れが続いている。全日本自動車販売協会連合会(全軽自協)によると、軽自動車(乗用・貨物含む)も同様の傾向で、19年度通年では同3.5%減の185万5967台と、16年度以来の前年割れとなった。

進むコーティングでは、一部メーカーの新車納車時の施工率は6~7割に上るといわれている。加えて今は新型コロナウイルスが及ぼす影響の顕在化も危惧される。一方、新車市場が低迷する傍らで、中古車市場やカーシェアリングなど、既販車・市場は活況を見せる。リクルートマーケティングパートナーズが19年5月に公表した「中古車購入実態調査」によると、18年の推計市場規模は前年比13.6%増の3兆4396億円。フリマアプリなどの浸透による中古品への許容度合いの上昇や、車両自体の性能進化を背景に、中古車への心理的ハードルが低下している。足元では、特に海外参入も相次いでいる。

輸出において新型コロナウイルスの影響が大きく出ており、今後の余波も懸念されるが、19年の中古車登録台数では、増税の影響が考えられる10月以降の落ち込みは新車よりも少ない。

**DUKS**  
ダックス株式会社

私たちはガラス交換時に求められる「接着性能の剛性基準」など安全性に配慮しお客様に信頼を提供いたします。

「次の利用者の満足度向上へ」  
こうした中、ホンダが今年1月から開始した「ホンダマンスリーオーナー」など、サブスクリプション形態で中古車を活用するサービスも話題となっている。約40年にわたって洗車・コーティング業界をけん引してきたトウメイの泉重光代表取締役社長は「既存車両の活用」が台頭する中で、次のユーザーが利用する際の満足度をいかに向上させるかという課題が出てくる」と指摘。「外装も内装も、手入れをしないのは化粧やスキンケアをしない

「新車時の価値を下げない」という観点で、中古車やカーシェア、サブスクにしても、「次の利用者」を考えると、本体価値を維持する上でボディコーティングをはじめとした各種ディテリングサービスの価値はますます高まる」と見ている。

「新車購入時にPPF」という一定の認知が定着しつつあり、一部では中古車の情報にPPFの有無を表示するケースも出てきている」と(開発部・濱根一平部長)と現状を見る。その上で、「最近では色付きや液体式など標準型から進化した製品も広がっており、こだわりのオーナーからのブランド指名も増えている」として、同社では取扱ブランドの拡充を急いでいる。(関連記事:4.5面)

雨を使った「雨の日洗浄具」として開発したソーラーパネルの簡易洗浄具  
**JOYBOND ソーラーロールクリーン**  
雨の日洗浄用具!

雨は結晶と成るミネラルを含まない蒸留水なので、乾燥しても汚れとして付着しません。

間違いだらけの洗浄方法をしていませんか?  
パネル洗浄に地下水や水道水を使うと、水に含まれるミネラルが結晶化しパネル面に固着します。この結晶化した部分を除去するには研磨機や研磨剤を使用して取り除かなくてはならず費用もかかります。

一番安全な洗浄水は洗剤も不要な「雨水」

このアイデアが「特許」なのです!!

洗浄の原理  
← スポンジローラーの回転方向  
→ スポンジローラーに掛る力の方向  
← 洗浄対象物に掛る力の方向

JOYBOND ジョイボンド株式会社  
FOR CAR CARE SPECIALIST. 〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原2-30-1 Tel.048-667-4533 Fax.048-651-1571 E-mail:info@joybond.co.jp http://www.joybond.co.jp



## 洗車特集

## 施工店×地域が生み出した 作業用でも物販でも使える「洗車ジーンズ」登場

コーティングを主とするディテリングショップ・クレストヨンド(守谷修代表取締役、岡山県総社市)は1月、洗車時の作業性に特化したアパレル商品「洗車ジーンズ」を新たに発売。3月には新色となるブラックエディションもラインナップに追加した。自動車業界はもとより、自転車乗り・専門店からも評判を呼んでいる。

洗車ジーンズは、強力な撥水性や柔軟な伸縮性、ケミカル類を取納しやすい大サイズのポケットなど、洗車・コーティング施工時の作業のしやすさに焦点を絞って開発。自身もディテイラーである守谷代表が監修しただけあり、ボディに傷をつけないためにリベットも使用していないなど細部にまでこだわりを見せ、企業ロゴなどを刻むレーザー加工も受け付けている。何より、同社からも程近い倉敷市児島地区は、国産ジーンズ発祥の地としてブランド化されており、同地で生産される高品質な製品は外国人からも高い人気。耐久性に優れる生地から撥水加工まで、「洗車



大手百貨店で販売されていた高級ストレッチデニム生地を活用し、作業時のみならず普段履きも十二分に可能な仕上がり

ジーンズ」はその「メイドイン児島」品質を受け継いでいる。

元々2000年に創業した同社は、新車ディーラーや中販などからの請負事業を中心としていたが、人力的に施工量に限りがあることなどからコーティングのノウハウを異なる領域で活用すべく、10年程前から自転車を対象とした事業を開始。自転車専門店へコーティング剤の販売や施工講習を手掛け、現在では同業界のコーティングにおいて一定の地位を確立している。

今回の洗車ジーンズも、ディテリングのノウハウと地元ブランドの活用を模索した守谷代表自身が発案。プロディテイラーの着用はもとより施工店での物販などを通じ、事業者、エンドユーザー問わず多くの「洗車好き」の活用を期待を寄せている。



カーディテリングの長年の実績のみならず、コーティング剤「ガラスの鏡」などで自転車の世界でも高い知名度を誇る同社

〈問い合わせ先〉  
クレストヨンド 電話:0866-95-0701

## エンドユーザーにファン多数のジーオン プロ施工店への導入拡大へ

2017年2月に日本に上陸した英国発のコーティングブランド「GYEON(ジーオン)」。日本ではカー用品店やディーラー店頭、イベントや媒体を通じ、目を引くカラフルなビジュアルも相まって、エンドユーザーの間で急速に認知度を高めている。「ファンを構築」した今後のステップとして、プロ施工店向けへの展開を本格化する。

ジーオンを展開するジーオンクォーツジャパン(西川篤志代表取締役、滋賀県愛知郡)は、「数多のプロ用コーティング剤が普及する日本で、後発での参入は難しく、一般ドライバーの認知度の拡大を第1の目標としてきた」とこれまでの戦略を明かす。それが奏功し、2018年から毎年出展している東京オートサロンでは、会場での販売を3年間で3倍以上の規模に伸ばしており、トヨタGRガレージ店頭でも、オートサロン直後は多数の購入・問い合わせがあるなど、クルマ好き層の間で着実に市民権を得つつある。

そんな同ブランドで人気なのが、ブルーが印象的な撥水剤入りシャンプー「Bathe+(バスプラス)」や、オレンジの簡易コーティング剤「WetCoart(ウェットコート)」。整備やカスタムにも精通する西川代表は、「自動車自体が進化する中、当初はコーティングに限らず、自動車に価値を付加する機能的な“何か”を探していた。そこで辿り着いたのが、老若男女使え、既存品を上回る艶感と扱いやすさを持つジーオン」とその強みを話す。さらに、レザークリーナーやタイヤワックス、各種クロス、コンパウンドなどの豊富な製品群や、製品改良・新商品開発のサイクルが早いのも特徴の1つという。

また、英国のプロディテイラー監修の下、プロ向け資材も展開しており、実は欧州で

はプロショップでの使用がメイン。前述の2製品も、元々は施工店でのメンテナンスを想定したものだ。西川代表は、「欧州ではメンテナンスの考え方がユーザーに根付いており、コーティングがしっかりと維持された車両は、下取りの際でも『買取後の販売のしやすさ』が買取額に反映されやすい」と、車両維持におけるコーティングやメンテナンスの利点を語る。

そして同社では今後、日本でも欧州同様、この“ユーザーにメンテナンス剤が認知されたジーオン”をプロ向けへ展開していく。欧州では、本社の厳格なレギュレーションの下、施工技術や店構えなど複合的な要素から施工店がランク付けされており、認証の有無や認定ランクによって使用できる資機材が限定されている。導入要件の詳細は今後構築していくが、既存のコーティング施工店を中心に広く募る予定だ。施工後の定期メンテナンスの実現が課題となっているコーティングにおいて、「ユーザーが知っているブランド」の活用は、施工店にとって1つの活路になるかもしれない。

自社でも施工ショップを営み、数多くのコーティング剤を使用してきた西川代表は、「ジーオンのワックス並みの艶感は味わったことがなかった」と話す



**GYEON**  
〈PR〉

カラフルなパッケージが印象的な同ブランド。使用者の要望や欧州の厳格な安全基準を基に、頻りに製品改善が行われているという



**GYEON**

エンドユーザーが支持する  
英国発ブランド「ジーオン」



英国トッププロディテイラーが監修!

ケミカル・コーティング剤から、クロス・コンパウンドまで  
1ブランドで豊富なラインナップ!

いよいよプロ施工店へ。

ジーオンクォーツジャパン  
滋賀県愛知郡愛荘町愛知川1774-4 TEL.0749-42-7568  
<http://gyeonquartz.jp>





ペイントプロテクションフィルム (PPF) 特集

JN-SHIELD (PR)

純国産でレースでも活躍する高品質PPF 大衆車レンジにも拡大

フィルム自体や施工の価格から、これまで超高級車市場を中心に拡大してきたPPFだが、ここに来て中級クラスをメインターゲットとした新たな製品が登場した。日本の大手化学メーカーJNC(山田敬三代表取締役、千代田区大手町)が手掛けるPPF「JN-SHIELD(「JNシールド」)では、これまでの1500μmのタイプに加え、今春から1000μmの「タイプL」を販売。品質と価格競争力を武器に、日本のPPF市場の裾野拡大に挑む。

タイプLは、世界に比べて選んでいる国内でのPPF普及を念頭に開発。精密加工品開発室・伊藤功一主幹は開発背景について、「高コストや施工難易度の高さ、日本の品質基準



価格競争力のみならず、純国産の高い品質には国内最高峰レースシーンのお墨付きも。ニスモチームを通じ、エンドユーザー認知の拡大も図っていく

層、粘着層を二気通貫で開発。製造し、さらなる改良を加えてトップコートには高い光沢性と自己修復機能を付与。施工傷の低減を図っているほか、巻き込み施工にも対応し、継ぎ目の見えないう仕上がりとし、工性の向上を実現している。実際にスーパーGT、GT500クラスのスモ車両に

の厳しさなどを要因にこれまで普及は限定的だった。他方で、道路環境が良い日本では世界と同様の厚みである必要性は少ないと感じ、タイプLに至った」と話す。タイプLの製品コンセプトは「貼るコーティング」。コーティングに付加するアクセサリとして展開することで、主対象とする中級クラス国産車はもとより、軽自動車もターゲットになり得る」と意欲的だ。低コストゆえ、車両全体のフル施工のみならず部分施工の需要も見込んでおり、黄変や白濁しやすいポリカーボネート製ヘッドライト専用用品も設定している。

その防汚性や軽量性が評価されて採用され、現在では他チームからもオフアワーを受けるといった、レースシーンでもその品質は高く支持されている。同社では現在、全国8社のプロショップを正規トレーナーに認定しており、各拠点にて定期的な説明会、施工講習会を実施中。施工者数の増加を図るとともに、製品もトップコートや粘着剤、フィルム基材の継続した開発を進め、随時改善していく意向。また、GT500ニスモチームのスポットードや消費者向けイベントへの出展、雑誌等の広告掲載を通じ、エンドユーザーの認知拡大にも精力的に取り組んでいく構えだ。



既存のPPFとは一線を画すコストパフォーマンスで、従来は施工対象になりづらかった軽自動車までもターゲットに。ヘッドライト専用用品も用意



一部国産車ディーラーでも提供が始まるなど、普及が進むヘッドライトフィルム。JNシールドではヘッドライト専用製品も設定

問い合わせ先  
ソラテック  
電話：059-36025152

STEK (PR)

ラッピング需要をも取り込む 新たな「ファッションPPF」

例えば普及が進むカナダなどでは、ドアカッパ、エッジなどの部分的な施工を含めれば、新車販売時の施工率はすでに10%程に上るといわれる。そんな中昨年11月、世界で64番目と選ばせながら新たに日本に導入されたブランドが、米シアトルに拠点を構える「STEK(エステック)」だ。日本ではエステックジャパン(石原正規代表取締役社長、世田谷区用賀)が正規総代理店を務め、国内でも従来のPPFとは線を画すアプローチで新たな市場を開拓している。

エステックの名を一躍広めたのが、ファッションPPFの名前で打ち出す柄・色付きタイプ。塗装色の上にカーボン柄やパールブリズムを付加できる透明の「ダイノカーボン」や「ダイノマット」、「ダイノブリズム」に加え、フィルム自体が着色された「ダイノブラック(グロス/マット)」や「ダイノブラック(カーボン/グロス/マット)」とラッピングの要素を持つフィルムまで多彩なバリエーション



保護だけでなくラッピング要素も兼ねる「ファッションPPF」。カスタムやラッピングの希望客とも相性が良いという



部分施工やヘッドライト専用PPFも好評なダイノシリーズ各種は、ゆず肌がない滑らかなフィルム表面の質感も特徴



昨年11月にオープンしたエステックジャパン。PPFのみならず、専用のコーティング剤やレザーケア製品などエステックブランドの各種ケミカルも取り揃える

を展開。ビジュアルのみならず、ダイノシリーズは疎水性とセルフヒーリング機能を有するトップコートを備えており、ウォーターマークや蟻酸、鳥の糞、排気ガスや油分などからの優れた防汚性や高い耐衝撃性も発揮する。もちろん、標準型の無色透明PPF「ダイノシールド」もラインナップ。

石原代表は、「施工店からは、ラッピングよりも耐久性・仕上りの品質が良く、ラッピングを希望する顧客にエステックPPFでの施工を代替提案した際の反応が良い、というフィードバックがある」として、新たな需要を開拓していること示唆。また、ドア

カッパ、エッジ、トランクエッジなどの部分施工や、ヘッドライトを保護する透明着色PPF「ダイノスモーク/シールド/ファンシー」各種の問い合わせも多いという。

エステックでは現在、エステックジャパンセールス、阿部商会、ソフト99オートサービスなどを日本正規販売店として展開中。製品においては、レッドやホワイトといった新たなカラーバリエーションもすでに予定されている。同社では今後、国内で本格的な施工店拡大に乗り出す上で、認定制度や講習会カリキュラムの構築を進めている。

問い合わせ先  
エステックジャパンセールス  
電話：03-6413-1973

**STEK JAPAN**

# DYNOSeries

ダイノの名を持つPPFはユニークでファッションナブルなラインナップを持つエステックのプロテクションフィルムです！  
すでに世界63か国以上で販売されています。

機能美という価値。もっと自由なPPF。

カラープロテクション  
GLOSSY/MATT/CARBON PLUS COLORS

ファッションPPF  
CLEAR/MATT/CARBON HEADLIGHT

コーティングいらずの防汚性能  
ANTI-YELLOWING

次世代PPF「エステック」日本上陸。  
STEK-JAPAN.COM